

私が出会ったすべての人々へ

To everyone

誰もが始めは初心者で、向上の意思と、数多くの努力と失敗と、時には無駄に見える時間の浪費を繰り返しながら成長し、少しずつ熟練者となっていく。オアズマンもコーチも誰でも、自分だけの力で成長していくわけではない。そして向上を求める限り、いつも何某かの未熟さが残されていることに気づき赤面する。(そしてそれは、「成長の余地」だと思ひ直す。)

1973年、高校に入学したとき、最初はかっこいい！と憧れながら体力に自信もなくあきらめていたのが、1年生の秋になって舵手として誘われたのが、この世界に足を突っ込む運命の分かれ道となった。高校のときはほぼナックルのコックスで過ごし、3年生の大事な試合での敗北の後、自分で見よう見真似でシングルスカルを漕ぎ始め、大学と大学院のときは、母校のコーチをしながら、途中で太田川ボートクラブの創立に携わり、まあ色々なことを体験させてもらいながら現在まで来た。30年はちょっと長い(長すぎる)な、と苦笑しながら。

今振り返って実感できるのは、結局、(ローイングについてだけでも)、ローイングを始める前のことを含め、またローイングを通じてでもそうでなくても、出会ったすべての人との様々なかかわりが、自分のローイングのために役に立っているなどということである。

ある時点では、自分のローイングに大きな妨げだと感じられた人にさえ、遠く過去になってしまえば、むしろそこで鍛えられたと感謝さえできるようになるから不思議だ。

その全ての人たちに、感謝の気持ちの表現として、これまでの自分の得てきたものを少しでも後輩に伝える形にすることで代えたいと思い、このマニュアルを作ることにした。

構想は、ずいぶん前(少なくとも10年以上)からあったのだけれど、ようやく2003年に「ローイングマニュアル2003」として、不完全ながら、形にできた。

RM2003を購読していただいた方へ

To Reader's of the First Edition

RM2003は願いどおり、多くの方に呼んでいただき、過分な評価を各方面からいただいた。県協会やクラブ単位で買っていただいたケースもあった。また県高体連の教材にと、一部のコピーの許諾を求められたところもあり、快諾させていただいた。

尊敬すべき多くの優秀なクラブ、コーチ、新しくボート部の顧問になられた先生、コーチのいないクラブ、高校に進学してボート部に入った方のお父さん、昔ボートを漕いでいた人、再び漕ぎ始めた人などなど、実に様々。いろいろな人に、読んでいただいて本当に有難い。

RM2005は、そんなR2003の読者の人が、もう一度見ても、読みたくなるようなものになってきたらどうか？



もう半分…まだ半分…

これまで出会えた全ての人たちが、今の自分のローイングの技術と姿勢の成長を助けてくれたと実感しています。それに感謝する気持ちを込め、このマニュアルを作成しました。

作成 20050614 改訂 20090810 20221211

写真の被写体の方々へ

To "objects"

このマニュアルに採用した写真のうち、被写体となっている方々のほとんどは、特にそのテーマを意図してモデルとなってもらったわけではない。撮り集めた写真の中から、テーマができるだけわかりやすいシーンを探して掲載した。競漕風景や特に良くないテクニックの中には、被写体としてそのテーマで掲載されるのは不本意ということがあるかもしれない。また平均的には良い動きをしているクルーの「たまたま」イレギュラーな動きをした場面をとらえたものもある。また、経験者を初心者に見立てて記述した写真や、経験者に依頼して問題のあるフォームを撮影させてもらったものもある。初心者向けの記述のクルーが初心者というわけでもない。

いずれにしても、写真の被写体になっていただいた方々の大半は、掲載についてクラブなどにおいて包括的に了解をいただいているケースを除き、事前に十分な了解をいただかなかったケースもある。この場を借りて、お詫び・御礼とともに事後承諾をお願いしたい。(おおっ、これは自分では？と探し出す楽しさを少し味わってもらおうことも期待したのですが…)

家族、友人etc

To my family, Friends, Athletes

家族をはじめとし、身近な人々、ローイングを通じて楽しく交流している人々への気持ちは、改めていうまでもない。意識的にも無意識にも支えられ、そしてまた支え、あるいは応援していくこと自体が、自分を支えてくれていることを、いつも思い知らされる。その思いは、歳を重ねるごとに強くなる。いつまでも感謝と、尊敬と友好を忘れないで、そして少しずつでも、より深めていきたいと思っている。

私事になりますが、2004年から2005年にかけて、私の身近で、偶然に、思いがけずも3人の方が、同じ病になり、厳しい状態と対峙しています。(もちろん、その3人同士は、お互いに面識はなく、私にとっての共通の大切な人たちののですが…)

そのことに、うまく言えませんが、いつも強いメッセージ(啓示?)のようなものを感じています。

自分の不摂生や甘え、勇気の無さを問われ、人生や家族やそしてローイングに対して、どう生きていくのかと自問するような毎日です。ローイングについて、拙いながらここまで時間ばかりを重ねるなかで、本当に現場の選手のために、また未来のローイング愛好者のために、自分にできることは何かを探しています。また同時に、人生の「先の時間」を考えることの危うさをも教えられます。誰も、おなじだよと

あまり時間がない。けれど、時間を言い訳にせず、できることをしなければと教えられる毎日です。また自分の活動や、このマニュアルの情報が、少しでも、ローイングを愛し、悩んでいる人の勇気に繋がれば、それ以上の喜びはありません。

あなたが、この本を手にとっていただいたことを、本当にありがたく思っています。

いつも、私の心の中でも、明るく、がんばっているあなたに。

小沢 哲史. 2005. 6. 14